

製本のススメ

Vol. 116

行く年くる年 毎年のことですが除夜の鐘がゴォ〜ンとなって、新たな年明けとなりますね。消費税 8%以降の景気の落ち込み分くらいは、なんとか盛り返すことができるでしょうか 多忙な年末年始 健康に気を付けて寝正月にならないようにしましょう。

今回は**上製本ってナニ?**の話し

この頃 上製本のお話をいただくことが多くなりました。おそらくハードカバーが付いている物を、そっくりまとめて『上製本』と呼んでいるとおもいますが、実はいくつかの種類に分かれています。絵本 アルバム 帳簿 写真集などすべて固い表紙が付きますが、作り方が全く違います。それぞれに専用の製本仕様があり、当然ですが印刷する用紙も面付けも変わります。

特に帳簿は 独特な製本仕様です。一見すると丸背のようですが、この背には固い芯紙をカマボコ状に加工した型が用いられます。これは帳簿を製本する会社が号数によって制作しますので、書籍類の上製本を扱う会社では作れません。

絵本は合紙という技法で印刷された用紙を厚手の芯紙に貼り合わせます。ページ数が少なくても、束の厚みは十分に取れます。アルバムは芯紙を使わず直接張り合わせますが、アルバム専用の用紙がありますのでコートやアートでは加工できない場合があります。アルバムというとフォトブックを思い浮かべますが、これとはまた作り方が違うのです。写真集は書籍上製本的一种ですので、糸綴りなど施しコートやアートなどで印刷できます。

さて、ここで問題なのは束厚です。最近はページ数の少ない記念誌も多くハードカバーの表紙を作るのに十分な束厚が取れない場合が多くあります。本の性格上 少々変でも・・・とは行きません。その為ページ数の少ない場合には、上製本というイメージの他にも納得していただけるデザインを考える事が肝要です。固い表紙は確かに豪華ですが、サイズの合わない表紙では極めて壊れやすく、また見栄えも悪いものです。



Teabreak

タブレット端末やスマートフォンがスタンダードになりつつありますが、頻繁にバージョンアップされ あっという間に古くなる機械媒体は、便利なのか不便なのか時々わからなくなります。寒い夜 湯船につかりカタログを眺めているのが好きですが、時折居眠りして本を湯船に落としても紙の本は、乾かしてまた眺めたりできます。紙って やっぱり素晴らしい!